

「第3期京都市伝統産業活性化推進計画」に対する市民意見及び本市の考え方

1 意見募集の概要

(1) 募集期間

平成29年1月25日（水）～平成29年2月26日（日）

(2) 周知方法

ア ホームページ「京都市情報館」への掲載

イ 意見募集冊子の配布（本庁舎案内所，区役所・支所，京都市産業技術研究所，京都伝統産業ふれあい館など本市関連施設，京都商工会議所など経済団体，伝統産業組合 など）

ウ 経済団体・中小企業・伝統産業企業等への各種メールマガジン など

(3) 募集方法

郵送，FAX，電子メール，持参又は京都市ホームページの意見募集フォーム

2 結果

(1) 意見数

応募者総数：140 意見総数：156

(2) 属性

ア 年齢

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	未回答
3	36	39	31	18	2	1	10
2.1%	25.7%	27.9%	22.1%	12.9%	1.4%	0.7%	7.1%

イ 性別

男性	女性	未回答
85	46	9
60.7%	32.9%	6.4%

ウ 居住地

市内	市外	未回答
99	32	9
70.7%	22.9%	6.4%

エ 職業

伝統産業関連	伝統産業以外	未回答
56	74	10
40.0%	52.9%	7.1%

※四捨五入しているため，100%にならない場合がある。

(3) 内容

第3期計画に反映するもの(A)は9件、記載済み又は趣旨に含まれているもの(B)は126件、今後の取組の推進に際して参考とするもの(C)は21件ありました。

関連する項目	反映 (A)	同趣旨 (B)	参考 (C)	合計
1 全体に対する御意見	0	18	3	21
2 第1章 計画の位置付け	2	0	1	3
3 第2章 伝統産業を取り巻く状況	0	4	0	4
4 第3章 目指すべき伝統産業の姿	0	6	3	9
5 第4章 活性化に向けた取組	7	98	14	119
合計	9	126	21	156

3 寄せられた御意見と京都市の考え方

(1) 全体に対する御意見

分類	意見要旨	京都市の考え方
B	<p>【全体に対する賛同の御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の印象として、これまでにはなかった新たな姿勢で取り組んでいかれるように感じ、非常に頼もしい計画だと思う。 ・とても分かりやすくまとまっていると思う。課題は多いが頑張って進めてほしい。 ・分かりやすく計画されていると思う。これまでの取組の実績や結果をしっかりと踏まえつつ、更なる発展を願う。 ・京都市の宝ともいえる伝統産業を発展継承させる内容であり、今後も強力に推進してほしい。 ・良い内容だと思う。継続して取り組んでいくことが重要である。 ・伝統産業の意義と現代の伝統産業に対する立ち位置や関係性をきちんと理解したうえで書かれているので、とても良いと思う。 ・理念や施策については、すべて共感できた。 ・私が考える案と同じで賛同する。 ・第3期計画においては何が課題でどうやって取り組んでいくのかが分かりやすく書かれている。 ・骨子案は全体的にまとまっており、これからの伝統的工芸品の展開が期待される。施策の案がより具 	<p>目標の達成に向け、本計画に基づく取組を実施し、伝統産業の活性化につなげてまいります。</p>

	<p>体的なものがいくつか記載されているとイメージしやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・網羅的にまとめられていると思う。強く打ち出すところは強調した方が分かりやすいと考える。 ・京都の伝統産業の活性化に向けて、新価値を創造するというすばらしい取組が盛り込まれた内容となっている。 ・伝統産業の活性化が期待できる案になっていると思う。 ・価値観の多様化，生活様式の変化など，確かに昨今の伝統産業を取り巻く現状は厳しいが，京都の持つポテンシャルを考えればもっともっと発展できるはずなので官民一体で新しいことに取り組み，世界一の都市を目指して頑張ってもらいたい。 ・とても良い内容だと思う。短期的に取り組むのではなく，中長期的に取り組んでいけば必ず成果が上がってくると思う。 ・骨子案は素晴らしいものだと思う。 ・伝統産業製品を使う側からも作る側から見てもとても良いと思う。 ・様々な方面からアプローチしているので良いと思う。知らなかったこともあるので，もっとPRしてもよいのではないかな。 	
C	<p>【全体に対する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業製品を伝統産業として扱うことも大事だが，いかに守るかという点在前面に出ている気がする。いかに市民生活に浸透させていくかという視点をもっと取り入れてもいいのではないかな。 ・全体を通して伝統という主張が強いと感じた。伝統産業は守るものではなく，生活の一部として浸透し，結果的に残っていくものではないかな。伝統を守りたい，残したいという主張が感じられてしまうと消費者は受け入れがたいと思う。 ・産業としてみるのなら，生活の中で親しむといった文化，風俗の視点ではなく，あくまでもどうやって売るかに視点を絞るべきだと思う。 	<p>本計画については，第3章に記載のとおり，最大の目標の目標を「出荷額の増加」とし，京都の伝統産業が産業として自立的に発展していくことに重点を置いております。</p> <p>ただし，京都の伝統産業の持つ文化的な側面も重要であるため，これらの視点も踏まえ，記載しております。</p> <p>具体的な取組については，マーケットイン型の商品開発の支援などにより，現代の生活に溶け込む伝統産業製品を活用していただけるよう取り組んでまいります。</p>

(2) 第1章 計画の位置付け

分類	意見要旨	京都市の考え方
A	<p>【文化庁の京都移転に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化庁の京都移転は文化振興のうえで重要な役割を果たすと思うので、しっかりと記載してはどうか。 文化庁の京都移転を契機とした伝統産業の振興に期待する。また、それを踏まえた記載をしてはどうか。 	<p>頂いた御意見を踏まえ、第1章「1 策定の趣旨」2段落目において、以下のとおり修正します。</p> <p><u>一方、「文化庁の京都移転」により、京都市は長期的に文化振興の責任を負うとともに、日本文化を支える伝統産業の振興につなげるチャンスが訪れている。また、東京オリンピック・パラリンピックの開催など、日本文化への注目が集まるかつてない機会が訪れるものと考えられる。</u></p>
C	<p>【伝統文化の歴史に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 茶道や華道、能、狂言は室町時代以降に成立したものであるため、せいぜい数百年強の歴史しかなく、1200年の歴史という言葉にくっつけると誤解を招く。 	<p>茶道、華道、香道、能、狂言など伝統文化に1200年の歴史があるとの記載はしておりませんので、原文のまま記載します。</p>

(3) 第2章 伝統産業を取り巻く状況

分類	意見要旨	京都市の考え方
B	<p>【伝統産業の現状と課題に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料や道具の生産流通に携わる人、商品の流通に携わる人も含めたより広いエコシステムとして捉えたいので、全体での最適化を図るべきだと思う。現在では道具や材料の入手が困難になるケースや、流通も高度成長期の商慣習が残っている所が多く、ミスマッチが多く発生しているのではないかと感じる。 商品企画や市場開拓に重心を置いた政策ではあまり現状と変化のない結果しか生まないと思う。 「現在の伝統産業サイクル」の図に表されるような負の循環を食い止めて、新しい産業構造への転換や文化創造の循環を創出するべく、抜本的で本質的な対策が必要だと感じる。 伝統産業従事者が漠然と感じてきた現状や必要な変化について、的確に表現されている。 	<p>道具・原材料の確保や複雑な生産流通体制の見直しのほか、商品開発や販路の拡大など市場の開拓などの課題の解消に向けた取組により、現在の伝統産業のサイクルのマイナスからプラスへの転換に向けて取り組んでまいります。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今の伝統産業における課題としては、売り上げの減少に伴い、後継者不足や原材料の事業者までが厳しい状態になっていることだと思う。
--	--

(4) 第3章 目指すべき伝統産業の姿

分類	意見要旨	京都市の考え方
B	<p>【目標に対する賛同の御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3章において出荷額の向上という具体的な数値目標を設定されており、伝統産業振興の本気度を感じる。目標達成されることを期待する。 ・掲げた目標については、大変厳しいものと考えているが頑張ってもらいたい。 ・出荷額を向上させるという目標は良いと思う。期待している。 ・とにかく伝統産業製品が売れないと、業界の基盤強化や後継者育成などが始まらないと思うので、出荷額の増加という目標にあるように、より販売促進に重点を置いた計画にされたら良いと思う。 ・目標は大変よいと思う。特に出荷額を上げるために頑張ってもらいたい。 ・基本理念の2「人材確保と技術継承」、基本理念3「伝統産業の魅力増進」に特に賛成する。 	<p>最大の目標の目標である出荷額の増加や、基本理念に掲げる目標の達成に向け、取り組んでまいります。</p>
C	<p>【目標設定に対する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷額と従事者数のデータからすると、従事者1人あたりの出荷額が京都市の全工業品の平均の4分の1強しかないレベル。せめてこの倍の水準はないと、産業と見なすのは難しいと思う。短期的にはともかく、長期的には出荷額の倍増か、従事者の半減を目指すべきだと思う。 ・出荷額だけよりも、卸、小売も含めた、目標設定をしてほしい。 ・京都市内の生産額にとらわれず、東京での小売額や海外生産量にも目を向けてほしい。デザインも、イノベーションというような斬新さだけではなく、「社会的弱者を雇用している」というような「社会性」や、他都市、他国と連携しているような「話題性」も重要だと思う。 	<p>今後の取組の推進にあたっての参考とさせていただきます。</p>

(5) 第4章 活性化に向けた取組

分類	意見要旨	京都市の考え方
【第4章全般について】		
B	<p>【第4章全般に対する賛同の御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い取組だと思う。 ・課題に対する施策が具体的に書かれていると思う。記載のとおり、新たな取組への支援と同時並行で技術の継承や後継者育成を支援していくことが大切だと思う。 ・骨子案ではすべての対策が考慮されている。 ・個人事業者や中小事業者ではどうやっても難しい事が具体的な施策に記載してあるのでありがたい。 ・「基本的施策1」に記載されている事業は、どれも今まさに必要な取組である。 ・伝統産業の街である京都ならではの手厚い施策でありありがたい。伝統産業事業者として京都全体の活性化に寄与したい。 ・伝統産業に従事している立場としては、伝統産業を盛り上げるための施策が多く、非常に助かっており、成果も出ている。 ・後継者育成の支援や販売経路の拡大などに尽力してほしい。 	<p>3つの視点を意識し、具体的な施策を推進することにより、伝統産業の活性化につなげてまいります。</p>
【3つの視点について】		
B	<p>【3つの視点に対する賛同の御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統産業×イノベーション・観光」はよい視点である。京都の伝統産業がなくなることで、いわゆる一般の方々が感じる「京都らしさ」が消えてしまうので、今後も新たな切り口で伝統産業の活性化をサポートしていく必要がある。 ・3つの視点は非常に重要である。特にイノベーションの創出に力を入れてほしい。そのためにも、異業種間交流の推進は非常に需要である。 ・「伝統産業×イノベーション」という視点には大いに賛同する。イノベーションを生み出す環境にし、チャレンジする人々をしっかりと支援してほしい。 	<p>「イノベーション」「文化・観光」「使い手」の3つの視点を意識し、具体的な施策を推進することにより、伝統産業の活性化につなげてまいります。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの視点が、厳しい現実を踏まえたうえで、打開するための未来志向型の考えである点が評価できる。 ・ 「伝統産業×イノベーション」は、新たな市場を創造するうえで不可欠なものであり、視点としては非常に優れているので、それを実行するための施策の明確な打出しやどう実行するかが重要なポイントではないか。 	
【基本的施策1について】		
A	<p>【異業種間交流に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数業種でチームを作り「新文化」を創出し、この年齢にはこれを持つ、といった成長と共に必要である価値観を社会に浸透させることが重要である。 ・ 京都は伝統産業の総合産地であるので、それぞれの伝統産業を学ぶ方々が交流し一緒に製品を作る機会があれば新たな可能性を探ることが出来るのではないか。 	
B	<p>【異業種間交流に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都の伝統産業業界でも、新しい取組にチャレンジすることにより、新分野での需要創出や海外における販路開拓など、実績を残している事業者がある。これらの事業者に共通するのは、異業種との連携や外部専門家（プロデューサー、デザイナー、コーディネーター）との協業だと感じる。 ・ 職人をしていると関わるのが業界の人ばかりで視野が狭くなるので、大学の研究者の方や、デザイン・アート業界等の方と交わってものづくりをすることは大変有益だと思う。制作に集中してスキルを高めることはもちろん最重要だが、イノベーションを生み、また市場ニーズに合うものづくりをするためにはそれ以外にも沢山の知識が必要だと実感する。 ・ 職人相互の交流や協力が、全ての業種に求められている事ではないかと感じる。 ・ 京都以外の他地域での産業とも連携や交流し、成功手法を参考にして、国内のブームを先取りした製品開発をする。 	<p>御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。</p> <p>基本的施策1「異業種間交流の推進」において、「<u>伝統産業の各業種間の連携や</u>、伝統産業事業者と様々な業種の非伝統産業事業者との異業種交流・連携を促進し、新たな販路の開拓につながる取組を支援する。」に修正。</p>

【現代の生活様式に合致した商品開発に関する御意見】

・京都の伝統産業が京都の人の生活に密着し、当たり前のように身近にあるものにするために、生活に身近な製品を手ごろな値段で近くの店で手に入れられたらいいのではないか。

・今の時代に沿った「品質のいいもの」を打ち出し、受け入れられ、実はそれが伝統産業製品であるというのが重要である。

・年代やライフスタイル別のニーズを把握し、将来世代の消費につながる取組を進めるべきである。

・売れるものづくりのためには消費者のニーズに接するということが必須であると思うが、そういった活動が難しい事業者も多いと思うので、事業者の取組や商品をしっかり把握し、販路拡大や新たな事業展開につながるPR活動を一体的に実施していくことが非常に大切である。第3期計画にはこういった内容もしっかり含まれていると思う。

B ・職人の仕事の仕組や工賃設定がどのように成り立ってきたかを再認識したうえで、今の時代に合う商品作りをすることが大事ではないか。

・伝統産業製品には「土産もん」「製作体験をするもの」というイメージがあるので、普段使えるものなどにさりげなく取り入れたらいいのではないか。

・伝統産業というとどうしても古いイメージがあるので、そのイメージを払しょくするための工夫がいるのではないか。

・伝統産業製品は、手が込んでいて、きらびやかで、良い品質なのは伝わるが、普段使いはできない、扱いに気を遣う、価格が高いなど時代の流れに逆らっているように見えるので、受け入れられないのは需要に合っていないからではないか。

・今の若い人が欲しいと思うものは何なのか真剣に考えて、商品開発や若手の育成が必要だと思う。

・これからのライフスタイルに合う商品開発に取り組んでほしい。

・伝統産業とデザイナーとのコラボ商品は良いものができてきていると思う。

消費者ニーズを踏まえたマーケットイン型の商品開発の支援などにより、現代の生活の中に溶け込む伝統産業製品を活用していただけるように取り組んでまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の日常生活など身近な分野で活用できるようにしてほしい。 ・格式を重んじる京都体質が暮らしの中に伝統産業を取り入れにくくしていると思う。 	
B	<p>【伝統産業の技術等の活用に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作る側は高い技術を持っているので、用途開発、販路開拓が最重要課題ではないか。 ・従来の販路ではなく、まったく別の商品化による販路開拓を考える必要があるのではないか。 	<p>伝統産業製品の素材や技術を活用した商品開発等により新たな販路の開拓につなげてまいります。</p>
B	<p>【プロデューサー等の育成に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化を理解したプロデューサーが必要である。 ・職人の技の良さを理解し、現在の市場に合う形にできるプロデューサーの養成がもっとも大切である。 ・生産者と消費者の間に立ってコーディネートする人材の育成は重要である。 ・生産者としては、従来の売り方に依存し、消費者へのアプローチや流通に関するノウハウがほとんどないので、伝統産業プロデューサー事業、販路拡大に関するサポートは魅力的に感じる。 ・職人は商品の実際の使われ方を知らないケースが多いと思うので、作り手、売り手、使い手が感覚を共有でき、新たな商品開発や販路の開拓につなげていくことが必要ではないか。 ・商品開発等をリードできるプロデューサーの育成が必要である。 	<p>伝統産業事業者と使い手をつなぎ、伝統産業の魅力を使い手に伝えるプロデューサーやコーディネーターの育成に取り組んでまいります。</p>
B	<p>【海外の販路開拓に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内需要が減っている中では、海外に打って出ることに支援も重要である。 ・府や商工会議所と連携して海外への進出を支援してほしい。 ・新商品を開拓し、海外の販路を拡大してほしい。 ・新しい市場の開拓が必要とされる中で、海外のデザイナーとのコラボレーション等は重要な取組であると感じる。 ・海外展開を希望した場合に、何をどのように展開すれば良いか分からないと思うので、「発表の場」「ものづくり」「人（パートナー）」を提供してもらえる施策は、新しい挑戦をしていく事業者にとっては、ありがたい。 	<p>海外におけるライフスタイルや嗜好に合った新商品の開発や販路の開拓を支援してまいります。</p>

B	<p>【伝統産業業界団体等に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業業界の行政依存体質・他力本願的な考え方を改めるべきである。 ・業界の人々の意識改革なくして活性化はありえない。 ・もっと伝統産業従事者が勉強していく必要があると思う。 ・団体にお金を出すのではなく、意欲があってリスクをとる覚悟のある個々の会社に出すべきではないか。 ・課題、目標、施策と良く記載されていると思う。あとは主体となる伝統産業業界の方々にいかにこれを理解してもらおうかだと思うので、周知に力を入れてほしい。 	<p>出荷額の増加を目指す戦略の策定や、生産・流通体制の再構築など、伝統産業組合など各業界団体における革新的な取組を支援し、意識の改革につなげてまいります。また、本計画の策定後、伝統産業組合などを対象とした説明会の開催等により、周知に努めます。</p>
B	<p>【業種に応じた対策に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業といってもたくさんの分野があるため、一律に考えるのは難しいのではないかと思います。 ・陶磁器に関しては他の産地のネームバリューの方が大きいので、まず国内でしっかりと認知されてから海外に進出してもいいと思う。 	<p>伝統産業の業種等によって、課題は様々であるため、生産や流通に詳しい専門家のアドバイスにより、事業者に応じたビジネスモデルの確立を支援します。</p>
B	<p>【事業者の販路開拓に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業事業者と消費者が効率よく対面し、直接話ができるシンプルな展示会等の取組は、市・府・国が可能な限り数多く作り出し、根気よく、継続してやっていく必要がある。 ・中小事業者では単独で商談会等にチャレンジするのが難しいと思うので、支援があるのはありがたい。 ・中小企業にとってアピールする場が少なく困っているため、販路の開拓の施策が助かる。 ・伝統産業製品の売上向上は、最終的にはビジネスなので各事業者の経営努力によるところが大きいですが、それに至るプロセスとして業界や事業者に気づきを与え、変わるきっかけづくりを行政が担うべきだと思う。 	<p>首都圏や海外の展示商談会への出展支援や消費者ニーズを踏まえたマーケットイン型の商品開発の支援などにより、外部専門家を交えて伝統産業事業者の飛躍に向けた機会を創出します。</p>

B	<p>【コンテンツ産業との連携に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アニメなどのコンテンツと組んだ取組は市場拡大につながると思うので積極的に行ってほしい。 ・コンテンツ産業等との連携において、例えば京都国際マンガミュージアムといった施設とコラボレーションすれば、今まで関心がなかった層にも伝統産業が浸透しやすいのではないか。 	<p>マンガ・アニメなどコンテンツを切り口に、伝統産業への関心がなかった層を取り込み、新たな市場を開拓してまいります。</p>
<p>【基本的施策2について】</p>		
B	<p>【伝統産業の教育に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業製品を子どもの頃から使える機会をつくることに力を入れてほしい。 ・学校現場では様々な教育指導が盛りだくさんであり、子どもへの指導に際して、教員への研修の実施や、職人の方への子どもへの関わり方のアドバイスなど、指導方法にも工夫や支援が必要である。授業参観以外で保護者向けに体験する機会があれば、家庭での学習機会にもつながる。 ・訪日外国人に質問されても答えられるように保育園、幼稚園、小中高と年代にあった伝統産業の知識を体験も含めて習得できる機会をつくってはどうか。 ・子どもの頃に楽しく伝統産業に触れることは、大人になっても印象に残る経験になり、今後の担い手を生み出す、使い手を増やす意味で良い取組だと思う。体験学習の回数を増やしたり、放課後クラブなどで陶芸や茶道など伝統産業を体験できる機会が増えれば伝統産業製品がもっと身近に感じられるようになると思う。 ・小学校で竹細工の体験学習を鮮明に覚えているので、体験できる機会を増やしていくことが、伝統産業を守っていくことにつながるのではないか。 	<p>伝統産業に対する若年層の関心と理解を深めるため、小中学校での体験学習を実施するとともに、子どもの頃から伝統産業製品を暮らしの中で使う機会を創出し、子どもの感性を育む取組を推進します。</p>
C	<p>【伝統産業の教育に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米スタイルへの憧れからそういったものを購入することが多くなっているが、意識的に伝統産業製品など日本らしいものを選ぶようにしていかないといけないと思う。 	

【基本的施策3について】		
A	<p>【文化芸術との連携に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化だけではなく、現代文化・芸能ともコラボする必要がある。 ・文化芸術との連携について、伝統文化との連携も重要だが、若い人たちへのアプローチを考えると、現代芸術との連携も重視してほしい。 	<p>御意見を踏まえ、以下のとおり修正します。</p> <p>基本的施策3「文化芸術との連携の促進とPRの強化」について、「伝統産業が日本の文化芸術伝統文化を支えていることを理解してもらうため、茶道、華道、香道や能、狂言等の伝統文化や、現代アートなどと連携した事業を実施し、国内外へ文化芸術伝統文化と伝統産業を合わせてPRする取組を強化する。」と修正。</p>
B	<p>【文化芸術との連携に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統産業と伝統芸能・文化など文化芸術は密接に関わっており、抱えている課題も似ているため、施策の推進にあたっては文化部門と連携して進めてほしい。 	
A	<p>【情報発信に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生と連携したり、美術館、寺社仏閣、大学等と協力し芸術的な面などをSNSで発信してほしい。 	
B	<p>【情報発信に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統産業の日」事業に参加し、伝統産業というものがどういうものか良く分かったので、毎年継続的に実施することが重要である。 ・学校教育を離れると触れたり学んだりする機会がなくなってしまったので、体験する機会が充実すると嬉しい。 ・関心と理解を求めていくことが重要である。京都ブランドを活用して発展していく必要があると考える。 ・京都の町並みや文化は、多くの世代から人気があり観光客も多いのに、伝統産業の需要が上がらないのは、伝統産業を身近に感じる人が少ないからだと思うので、多くの人に魅力を発信し、身近に感じるために「京もの」のブランド化を推進し、普及を促進することは重要な取組ではないか。 ・伝統産業に関する関心と理解を深める取組を進めてほしい。 ・京都から日本全国に伝統産業の魅力を発信できるように先頭となって頑張してほしい。 ・文化庁が京都に来て、東京オリンピックも控え、国内外から京都市の注目度も上がってくるので、 	<p>基本的施策3「インターネットを活用した情報発信の充実」について、「伝統産業に関する情報の発信力を高めるために、大学生などの若い感性や、芸術的なセンスを取り入れ、SNSなど～」に修正。</p>

	これをよい機会として伝統産業のPRをますます頑張してほしい。	
C	<p>【情報発信の取組に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを開催する際のPR方法について、チラシやホームページのデザインがより見やすくポップなものになれば客層も変わると思いました。 ・どこで売っているが分からない。伝統産業マップがほしい。 ・伝統産業の詳細が分かるDVDを制作し、各自治体に配布して興味を持ってもらうため、日本各地でイベントを開催してはどうか。 ・京都ではイベントなどを通して、多くの方々が伝統産業と触れ合う場面が多く見られ、一般の人たちが伝統産業に興味を持つ機会になっていて良いと思うので、他府県でも実施すると、知名度が上がるのではないかと。 	今後の取組の推進にあたっての参考とさせていただきます。
B	<p>【観光との連携に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々増加傾向にある観光客数とともに飛躍できるよう、国内外の観光客向け施策を充実させたらよいと思う。 ・京都は観光客が多いので必要なことだとは思いますが、外国人よりまずは京都の人が魅力を感じなければ伝統産業は廃れていってしまうと思う。 ・インバウンドへの対応について、京都に住んでいる外国人にSNS等で外国に対して情報発信してもらうのはどうか。英語がネイティブの外国人を市が採用し、京都の各小学校に英語教員として配置し、彼らに情報発信してもらってはどうか。 ・海外に対しては京都というブランドがあると思うので、観光客へのPRに力を入れることは重要だと思う。 ・京都には今後海外からより多くの富裕層が来ると考えられるのでしっかりと付加価値をアピールする必要がある。 ・世界へ向けての情報発信を重視していくべきである。 ・ふれあい館や伝統産業の日の認知度の向上だけでは「世界」に魅力を伝えきれないと思うので、それらの内容の充実してほしい。 	「伝統産業の日」事業や工房訪問事業などの実施により、市民や観光客が伝統産業を見て、触れて、買える機会を創出し、魅力を発信してまいります。また、姉妹都市や海外情報拠点等との連携の下、海外での情報発信はもとより、大使館関係者や留学生、国内居住の外国人、外国人観光客などに対して広く伝統産業の魅力を発信してまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ M I C E 関連で、次の購入のきっかけとなるような製品の開発や工夫をしてはどうか。 	
C	<p>【観光との連携に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おもてなしがもっと押されていて良かった。 	
B	<p>【伝統産業のブランド価値向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者にブランドを理解してもらうように取り組まなければならない。 ・ 伝統産業製品は手間ひまかけて、優れた技術を駆使してつくっており、京都は作り手が身近にいるもののそれが消費者に伝わっていないことがおしい。作り手と消費者をもっと近づけて、伝統産業製品に消費者が特別な愛着を持てるようにする仕掛けがあるとよいと思う。 	<p>市民や観光客が伝統産業を見て、触れて、買える機会を創出する工房訪問事業の実施や、京都の職人により手間ひまかけて製造されていることが分かる生産履歴システムの構築を支援し、「京もの」のブランド化の推進してまいります。</p>
【基本的施策4について】		
A	<p>【道具・原材料の確保に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統産業で利用される原材料のうち、農業を営む方が生産されるものが多いと思う。品種改良を含めた研究の余地があると思うので農業関連のコースのある大学との連携が促進できたらよいのではないかと。 ・ 道具や原材料の確保に向けて、科学や工学等最先端の技術が貢献できることがあると思うので、産学連携に期待する。 	<p>基本的施策4「道具・原材料の確保対策の実施」において「行政機関や業界団体、<u>京都市産業技術研究所や大学等の研究機関などとの連携の下</u>」に修正。</p>
B	<p>【障害のある方の伝統産業における就労に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある方が持たれる特性をマイナスではなくプラスととらえ、職人の後継者として検討するのは素晴らしい。支援学校に通う生徒の中には、感性や細部にわたる緻密なこだわりなど少しの後押しがあれば開花する才能を持たれた方がおられるのではないかと。 ・ 学校、行政、業界、施設の現状を踏まえた合理的な判断と強力なリーダーシップさえあれば、障害者が多く働く就労支援施設が伝統産業の仕事を請負って、障害者である利用者と職員の共同作業で発注者が期待するその質量を立派にこなして大きな受け皿になる可能性は大きいと言える。 	<p>関係部署や伝統産業事業者と連携し、障害のある方の伝統産業における就労に向けた検討を進めてまいります。</p>

B	<p>【技術の継承に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統産業には日本が誇る技術が結集しているので、衰退させないようにしてほしい。 ・ 失われつつある伝統産業を残すための仕組みも重要であり、こういった項目は具体的施策の中でも、重点施策として位置付けてほしい。 ・ 京都は、日本を代表する伝統産業がたくさん根付いているので、それらをこれからも大事に守り発展させてほしい。 ・ 京都に多くの伝統産業があることに、改めて驚いた。歴史とともに重要な資源であるので、保全活用をしっかりと行ってほしい。 ・ 産業として持続していくためにも、材料・道具・途中工程の職人の現状をもっと詳しく掴んでほしい。 ・ 職人が減り、技術の存続が危ぶまれ、一度なくなってしまうものがあると様々な面で弊害が起きるのではないか。 	<p>伝統産業を次代に継承するため、「生産・流通体制の在り方の検討」や「京都市産業技術研究所の機能強化」など技術の継承や後継者の育成に関する取組を実施してまいります。</p>
C	<p>【技術の継承に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一度絶えた技を復活させるのは大変なので守っていこうというのは分かるが、消えていっても仕方がないものもあるのではないか。今ある伝統技術をすべて継承していくのではなく、いくらコストをかけても経済的に立ち行かない分野は諦めてはどうか。 ・ 急速にライフスタイルが変化する中で、その変化に対応できず廃れていこうとしているものをなぜあえて活性化する必要があるのか。 	<p>本計画については、第3章に記載のとおり、最大の目標を「出荷額の増加」とし、京都の伝統産業が産業として自律的に発展していくことに重点をおいております。そのうえで、消費者ニーズを踏まえたマーケットイン型の商品開発や、後継者の育成など技術の継承について必要な支援を実施してまいります。</p>

B	<p>【後継者の育成に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに実施している作品コンペティションの概要を見ると、審査員が実績・実力のある方々で、支援内容に広がり期待できるので、もっと力を入れて他の地方からも注目されるコンペティションにしてほしい。 ・作品コンペティションを学校や大学で行えば、若い人に面白いと思ってもらえるのではないか。 ・後継者の育成はとても大切であり、若者にもっと伝統産業を知ってもらい、将来の仕事の選択肢に加えてもらうため、大学との連携や若年層への情報発信に力を入れてほしい。 ・人材と技術は一朝一夕にできるものではないと思うので、伝統産業製品の魅力のアピールとともに、職人の仕事の魅力もアピールする必要がある。 ・担い手不足は、外国人にアピールしたり、若者に伝統産業が粋なものだと印象づけていくのがよいのではないか。 ・メディアなども活用して、未来に向かって頑張る人たちを支援・応援するための仕組みが必要になるのではないか。 ・後継者育成は是非進めてほしい。 ・優れた技術を持つ人、価値ある作品を生む人にスポットを当てることも大事だが、全体として出荷額を上げることを考えるのであれば、まだ力を発揮できていない方々を育成、支援することにも重点を置くべきではと思いました。 ・若手の職人見習いのような人々にも作品発表の場が増えるとありがたい。 	<p>若手職人向け作品コンペティションの開催や、他業種との交流、研修、展示販売事業等を通じたテストマーケティングの場の提供のほか、伝統産業事業者の新規雇用に対する支援など様々な取組を実施してまいります。また、京都市産業技術研究所など関係機関や大学等との連携の下、若年層への情報発信や、技術面に限らない商品開発から販路開拓までの支援など、次代を担う若手職人の育成に取り組んでまいります。</p>
---	---	--

C	<p>【若手職人の就労環境に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り手の減少は、骨子案以外にも厳しい師弟関係の職場が現代に合わなくなってきたことも一因だと思う。作り手が楽しいと思えるような職場の工夫や、育児中の女性や障害者の方、過疎地の方を雇用できるような制度づくりも必要なのでは。 ・職業として伝統産業に携わるために、就労条件など若者たちの働き方ニーズを満たすことが必要ではないか。 ・人材の育成や技術の継承及び革新の機会を創出とあるが、具体的な施策が乏しいのではないか。伝統産業を学んでも就職や修行する場が少ないので、インターン制度やOJTなど最低2年は一事業所で働けるようにしてほしい。 	<p>今後の取組の推進にあたっての参考とさせていただきます。</p>
<p>【基本的施策5について】</p>		
B	<p>【京都伝統産業ふれあい館に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい館の活性化は記載の通りで、「京都の伝統産業については何でもここ」と思ってもらえるような施設を目指してほしい。 	<p>京都伝統産業ふれあい館が核となって業界の活性化につなげるため、交流機能の強化、販売促進機能の充実を図るとともに、施設の魅力向上のため、展示内容を刷新するなど、リニューアルを検討・推進してまいります。</p>
C	<p>【京都伝統産業ふれあい館に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい館の充実は無駄ではないか。 ・伝統産業ふれあい館について、本当に活性化できているのか疑問である。ホームページの動画は古くて見にくく、また、人があまり入っていない印象を受ける。 ・暮らしの中に根付いた技術や伝統が京都らしさというのであれば、ふれあい館のような場所にコンテンツを集中されるのはナンセンスだと思う。 	<p>京都伝統産業ふれあい館が核となって業界の活性化につなげるため、交流機能の強化、販売促進機能の充実を図るとともに、施設の魅力向上のため、展示内容を刷新するなど、リニューアルを検討・推進してまいります。</p>
B	<p>【京都市産業技術研究所に関する御意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術研究所は、一般的には影が薄いと思うので、技術力に加えアピール力を付けてほしい。 ・京都市産業技術研究所で伝統産業技術後継者育成研修を受けているが、講師の方々も素晴らしく、研修を比較的安価な受講料で受けることができ、本当に感謝している。技術の継承はますます困難になってきているので、より一層の充実を願う。 	<p>次代を担う若手職人の育成のため、京都市産業技術研究所との連携の下、技術面に限らず、商品開発から販路開拓まで支援してまいります。</p>

(参考) 暮らしの中に伝統産業製品を取り入れていくためには、どのようなことが必要だと思うかに対する回答

意見要旨	件数
現代の生活様式に合い、消費者ニーズを踏まえた商品づくり。	36
話題性のある取組やマスメディアやSNSを活用など情報発信の強化。	24
価格帯に幅を持たせる。手が届きやすい価格設定。	22
ショッピングモール、カフェ、雑貨店での展示販売など、買いやすい環境づくり。	18
価格が高くてもしっかりだけの価値があることを知ってもらう取組の実施。	11
小さい頃から学校や家庭で伝統産業製品を学習し、使い、触れる機会の創出。	9
きものについての着用ルールの簡素化、着付や手入れの仕方の周知。	4
異業種間連携による新たな商品の開発。	3
作り手や売り手の意識改革。	2
その他	7
計	136